

ザ・ジャーナル!!

Vol.2 No.1

春号

“やさしき便り～岡山医療センターの今”

URL <http://www.hosp.go.jp/~okayama/> E-mail info@okayama3.hosp.go.jp

CONTENTS

This is our hospital ●センターTOPICS ——— 2～4

●淳ちゃんのワンポイント手話 ——— 5

●地域医療連携室のスタッフが替わりました! ——— 5

ジャストナウ ●病院機能評価受審 ——— 6～8

●創立記念日/作家 小川洋子さん 来院! ——— 9

シリーズ ●岡山医療センター物語 第5話「病気を理解することのむつかしさ 大切さ」「わたしと医療センター」——— 10～11

病院活動案内 ——— 12

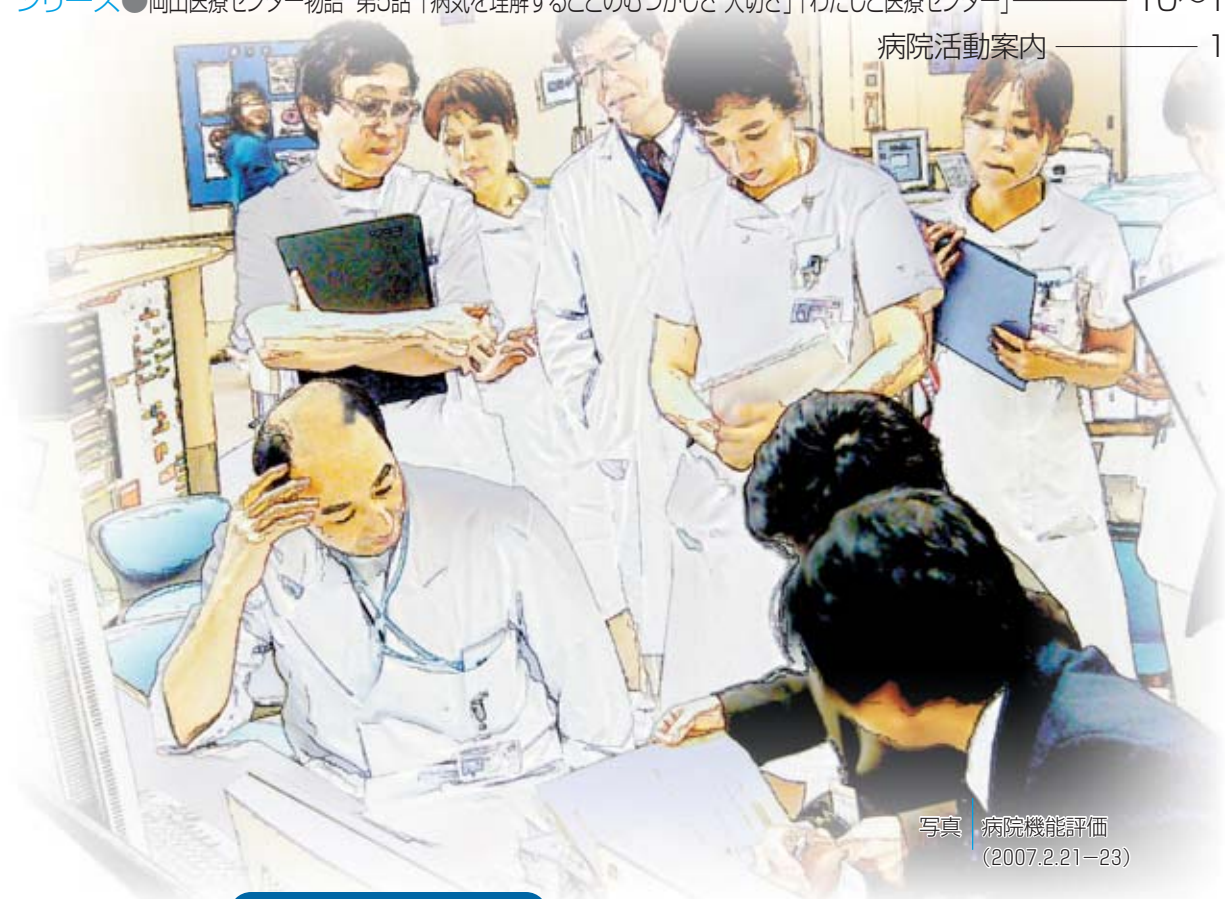


写真 病院機能評価
(2007.2.21-23)

岡山医療センターの理念

一人にやさしい病院— をめざして
—Human Friendly Hospital—



- 1: 患者さまにやさしい病院を目指します
- 2: 病院で働く人にやさしい病院を目指します
- 3: 地域の人にやさしい病院を目指します

This is our

センターTOPICS



新看護部長のごあいさつ 看護部長 三浦 麗子



平成19年4月1日付けで小野池千秋看護部長の後任として着任しました。当院は、病院の理念や方針に向かって職員一人一人が活動的であるのを実感しています。また、歴代の看護部長さん方の仕事の偉大さを肌で感じながら、身の引き締まる思いと同時に岡山医療センターで勤務できることを誇りに感じています。

今年度は、看護部門に約120名の看護師・助産師が採用されました。多くの病院が看護師を必要としている中、当院を看護職員としての新たな出発点として選んで下さった新採用者に感謝しています。

そのような中で大きな課題を認識しているところです。それは、患者様に安心と安全の看護が提供できる看護力の再構築です。看護部は「温かい手、やさしいまなざしで患者様と共に歩む知的な看護を目指します」という理念を掲げています。理念を具体的に行動化するには看護師の力が必要です。約530名の看護師一人一人のもつ「力」を引き出すことは看護部長としての重要な役割だと考えています。

「千里の道も一歩から」これは私の大好きな言葉の一つです。一步一步進化し続ける看護部として、病院運営に貢献していきたいと考えています。どうぞよろしく願い致します。

新副学校長のごあいさつ 看護学校副学校長 安井 良江



4月1日付で大原副学校長の後任で参りました。岡山での勤務は初めてです。前任地は中国四国厚生局です。これまで看護学校での勤務が長かったので、今回、また学生と共に学ぶことを大変嬉しく思います。

初めての地、大きな組織、教室一杯の学生と一つ一つに戸惑いながらも、「せられい」の岡山弁に親しみと命令とお誘いを微妙に感じながら、色々教えていた

だいています。

母体病院岡山医療センターは大きな飛躍の時にありますが、看護学校も今年度から、1学年定員120名の更なる大型校となりました。数は力であり、みなぎる若さと活気を感じます。大型校になってもこれまでと変わらぬ学校の力や伝統を受け継ぎより高めていくことが、求められていると考えます。この主人公は学生ですが、学校教職員や病院の皆様方の協力を得てしっかりサポートしていきたいと思います。皆様、どうぞよろしく願いいたします。

新薬剤科長のごあいさつ 薬剤科長 市場 泰全



この度4月1日付けで、藤川薬剤科長の後任として浜田医療センターからまいりました。赴任して先ず感じましたのは職員皆様の活気とやる気と情熱でした。このような環境で勤務出来ることの期待感と共に「やらなければ」という緊張感をひしひしと感じております。

薬剤師も、平成18年度の入学生から6年制となり、臨床

実習の拡充が必要になるとともに、指導にあたる薬剤師に対しては認定薬剤師の資格が求められ、日常業務でも各種の専門薬剤師（がん、CRC、NST、感染など）が求められることとなってきております。そこで、チーム医療の担い手としての薬剤師育成を視野に入れた職場環境整備に努めていきたいと思っておりますが、そのためには、職員皆様のご理解とご支援が必要ですので、皆様のご協力をよろしく願いいたします。

h o s p i t a l !

新任Drご紹介(平成18年10月~19年4月)



糖尿病・代謝内科 利根 淳仁

平成12年、岡山大学医学部卒業です。専門は糖尿病を中心とした生活習慣病領域です。患者さまにご満足いただける医療を提供できるよう一生懸命頑張りますので、よろしくお願いいたします。



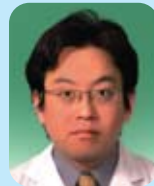
新生児科 宇都宮 剛

愛媛大学卒で卒後6年目の宇都宮剛と申します。現在は新生児科に所属しております。予定日より早く生まれたお子さんが元気に育っていくよう少しでも力になればいいと思っています。よろしくお願いいたします。



整形外科 塩田 直史

平成10年大学卒業、学位取得後は救急外傷・骨折、人工関節、スポーツ整形、術後深部静脈血栓症・肺塞栓症を専門にし、平成18年4月より当院に勤務させていただいております。更なるレベルアップを目指し頑張るつもりですのでよろしくお願いいたします。



小児外科 片山 修一

平成13年川崎医科大学卒業。同年医師となり、今回小児外科医として働くこととなりました。小児科、産婦人科、小児外科と周産期関連各科で研鑽した経験を生かして、赤ちゃんや子供のケア、両親の精神的サポートを行っていただければと考えています。よろしくお願いいたします。



耳鼻咽喉科 服部 央

平成18年12月より勤務しております。平成9年に鳥取大学医学部を卒業後、岡山大学耳鼻咽喉科に入局しました。最近では鼻副鼻腔疾患を中心に診療を行ってきました。日々の診療を糧にさらなるレベルアップに努めたいと思っております。ご指導のほど、よろしくお願いいたします。



整形外科 高橋 雅也

平成18年10月から整形外科医として赴任しました。平成3年岡山大学卒業です。専門分野といいますか、修行分野は脊椎外科で一日も早く胸を張って「脊椎外科医です」と言える日がくるよう精一杯がんばる所存ですので、よろしくお願いいたします。

看護学校増築工事完成!

看護学校教育主事 伴藤 典子

本校は、昭和23年の開設以来、国立病院機構及び社会に貢献しうる有能な人材の育成に努めこれまでに約2000名の卒業生を送り出しました。平成19年4月には1学年定員80名から120名の学校として、新たな歴史の1頁を刻むことができました。増改築した校舎は階段教室をはじめ、教室の数も増え360名の学生が一同に学習できる環境が整いました。二つの看護学実習室も充実し各領域に応じた演習も行えるようになりました。4月10日には大勢の新入生を迎え校内は元気な学生

の音が響いています。

皆様、是非、大きくなってますます元気な岡山看護学校を見に来てください。教職員一同お待ちしております。



シーガルス支援自販機が設置されました!

バレーボールV・プレミアリーグ、岡山シーガルス支援自動販売機が、看護学校1階食堂に設置されました。4月2日に、同チームの河本昭義監督、野村まり主将らも駆けつけ、除幕式が行われました。清涼飲料水など売上金の一部がシーガルスの活動資金にあてられる予定です。地域に貢献する病院として、これからも「わがまち」のチームを応援し、交流を深めていきたいと思っております。(大森 記)

This is our

放射線科最新鋭撮影装置の導入

放射線科副技師長 田淵 修一
同 主任 今井 英司
同 技師 鎌野 心

①最新鋭 64列CT導入

当院に2月より稼働しました64列CTの特徴をご紹介します。まず、第一に撮影時間の大幅な短縮ができるようになります。今までのCTでは全身撮影を行うと30秒程掛かっていましたが、64列CTでは15秒程度の撮影が可能となりました。それにより、撮影時の息止め時間が短縮することができ、これにより患者様の負担が軽減されました。

次に画像に関しては、以前は5mm程度の厚さで撮影されていましたが、64列CTでは短い撮影時間でありながら1mm以下の厚さで撮影していますので、横断像だけでなく冠状断、矢状断像も良好な画像を作成することができます。更に通常の平面画像以外に特殊な3D画像を作成することができるようになり、より良い画像診断を行うことが可能となりました。

では、当院で作成される特殊な3D画像の一部を紹介します。

●冠動脈CT

心電図同期撮影を行うことにより冠動脈狭窄等の病変を描出する事が出来、心臓カテーテル検査に近い画像診断を行うことができます。(図1)

●血管系CT

動脈解離、動脈瘤、動脈狭窄、等を立体的に観察する事ができ、手術計画等に利用することができます。(図2、3、4)



図1



図2

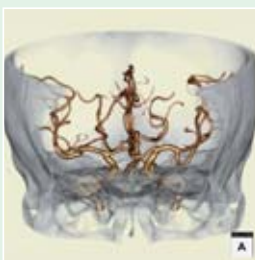


図3

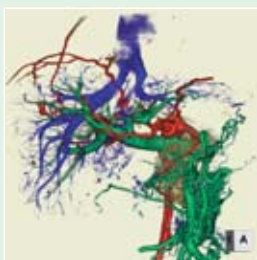


図4

●仮想内視鏡CT

腸管内に空気を入れて撮影する事により内視鏡と同様な視野で観察することができます。(図5)

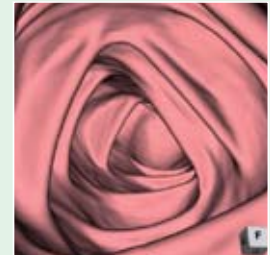


図5

以上のように、3DCTは専門性が高いためそれぞれ専門の科の受診をお勧めします。

また今回CTの導入に辺り、当院の理念である「人に優しい病院」を目指し検査室も患者様がくつろげるように鳥が描かれた壁紙を使用し明るい部屋作りをしています。検査を受けられた患者様からも好評を得ています。



②パイプラインフラットパネル心臓カテーテル装置新規導入

4月より新しい心臓カテーテル装置の稼働が始まりました。新しい装置では今まで以上にきれいな画像が得られ、撮影時間も短縮できるようになりました。また、使用する造影剤も少なくすることができ被曝線量も抑えられることから、より患者様にやさしい検査が行えるのではないかと考えております。

これで心臓カテーテル装置が二台になり緊急の検査にも迅速に対応できる装置環境が整いました。これらを駆使して皆様のお役に立っていきたくと思っています。



h o s p i t a l !

淳ちゃんのワンポイント手話

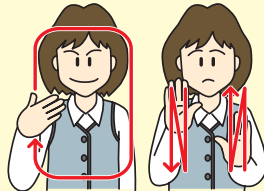
手話に チャレンジ!

病院で役立つ一口手話



Q 症状はいつから
ですか?

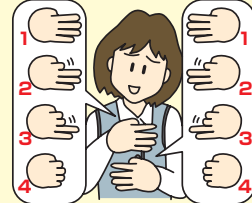
淳ちゃん



症状

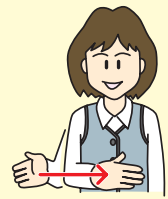
右手のひらを
体の前で回す

両手のひらを前に
向けて、交互に
上下させる



いつ?

両手を上下にして、
両手同時に順番に
指を折る



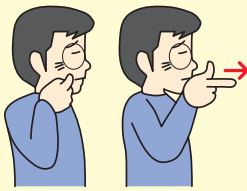
から

指先を前に向けた
右手を左に払う



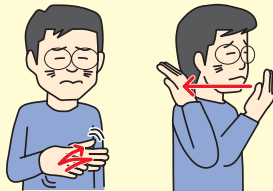
A 1ヵ月ぐらいい前から
下痢(便秘)しています

信ちゃん



1ヵ月

親指と人差指を閉じた右手を
ほおに当て、前に出しながら
人差指を伸ばす



くらい

右手指先を前に向け、
左右に小さく振る



前



から

指先を前に向けた
右手を左に払う



下痢

左手の親指と4指の
間を、握った右手を
上から通して開く



便秘

丸めた左手の中に
つまんだ右手を指先から
いれて少しゆらす

地域医療連携室のスタッフが替わりました! 地域医療連携室長 大森 信彦

地域医療連携室のスタッフが一部新しくなりましたので、紹介いたします。

●前方連携

連携室発足時からのスタッフで、病院内外の諸先生方をつなぐ要として活躍してきた西村淳子の異動にともない、浅野泰子、古谷裕恵、田中菜津子の3名が新規配属となりました。

●後方連携

退院調整専任看護師：山田朋子の退職にともない、吉井一恵が新規配属となりました。

医療ソーシャルワーカー (MSW)：吉村結実の退職にともない、木戸洋志、森重潤子が新規配属となり、

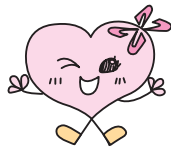
神崎早苗を筆頭に、3名体制となりました。

●事務担当

経営企画室長：佐伯哲朗の異動にともない今田一馬が着任いたしました。

室長 (大森内科医長)、副室長 (鈴木美智子副看護部長)、経営企画係長 (植田誠司) は続投です。新しい顔ぶれではありますが、地域医療連携室をスムーズにご利用いただけるよう頑張りますので、旧スタッフ同様、ご支援のほどお願い申し上げます。また、旧スタッフに賜りましたさまざまなお指導やご助力に対しまして、紙面をお借りして、御礼申し上げます。





病院機能評価受審！

「病院機能評価を受審して」

事務部長

馬場 洋一（機能評価受審準備室事務局長）

ご存知のように病院機能評価は病院の質・医療の質を第三者である日本医療機能評価機構が、実に6領域532にも及ぶ項目について全国共通のものさしで評価を行い、全項目の評価基準をクリアした病院にのみ認定証を与える、というものである。当院は5年前にこの認定を受けており、今回は再審査ということになる。

機能評価の受審は、準備期間に概ね1年を要するというのが通例で、「1年間に準備する行為そのものが、質の向上につながる。」と言われている。つまり、「病院機能評価を受ける」という目的のために病院全体が一丸となって準備に取り組むことが、日々の医療の確認、改善点の発見となり、改善策を実施することで医療の質の向上に繋がるということである。

当院の場合、1年以上も前から準備を始めた部署もあれば、比較的押し迫って準備を始めた部署もあったように思われた。しかし、受審を1ヶ月後に控えた頃からの全体の集中力とパワーは大いなる盛り上がりを見せたのではないだろうか。短期間で受審体制を磐石に

した離れ業は、職員ひとりひとりの日々の研鑽と不断的努力があったればこそと思っている。1日も早く認定証が到着することを願ってやまない。

医師の立場から

副院長 三河内 弘

病院の総合的な機能を評価するものに病院機能評価がある。これは診療機能自体と同時に患者様主体の診療が出来ているかなども含めた厳しく、細部にわたる評価である。これを受審する際には院内のすべてが完全にオープンされ外部の専門家に厳しくチェックされる。しかも5年毎に再評価を受けなければいけない。当院は平成14年にV3.0を受審して認定病院となっているので、本年2月に更に評価内容が厳しくなったV5.0で二度目の受審をしたのである。平常通りの業務をしている状態で受審し、合格点をもらえるのがベストである。しかし評価内容は非常に厳しく細部にわたる。このため病院全体で不備を洗い出し、改善を行なう作業をはじめた。この作業は膨大で、全職種が参加しなければ到底不可能である。その過程で職種を越えたコミュニケーションができたことは大きな収穫であった。この事は必ずや更なる業務の改善に繋がるものと信じている。受審準備作業過程では職員の驚くほどのエネルギーを改めて実感した次第である。さて評価の結果判定はまだであるが、受審前と比べると明らかに病院の質が向上していると実感できることも事実である。今後はこれを維持し、継続した改善活動をして、



N O

W !



患者様方から更に信頼される「人にやさしい病院」をめざしたい。

看護の立場から

—「受審」に向けてのプロセスで得たもの— 副看護部長 鈴木 美智子

当院が初めて病院機能評価を受審したのは、2002年3月である。合格すると有効期間は5年間である。当然、5年先である2007年には2回目の審査があることはわかっていたはずだが…。5年前に改善し、見直したことを継続しつつ、さらに向上している状況下での受審なので、準備や実施はスムーズなはずだったが、現実には…。5年前に審査を受けた内容に比べて審査項目も増え、内容も深くなり特に医療・看護において「チーム医療」「連携」というキーワードに象徴されるように医師・看護師のみならず、コメディカルや地域までも巻き込み、さらにスタッフの一人一人までも病院の理念や基本方針などが周知されていなければ達成できないような評価の視点であった。さらに常に患者・患者家族を中心に捉え、客観的に鋭く問われている評価内容であった。また、2005年6月から入院診療録は電子化に移行しており、電子診療録での機能評価受審は初めてのことであった。評価項目に沿って自己評



価を行い、改善事項に対する対策を立て、具体的な内容にしてスタッフへ周知していくことを繰り返し行った。特に看護展開するための基本となる基準の明文化や手順の見直しをすることで改めて、看護の振り返りになり、今後の課題も明確になった。また、師長・副師長が中心となり、病棟ラウンドを行い、その都度実施状況の確認と改善事項の洗い出しを行った。実際には睡眠時間も削られ、大変な日々ではあったが、「受審」ということが、病院経営を効果的にしていくための大きな原動力になり、さらに職員の結束力も強くなり、「マイホスピタル精神」の向上に結びついたと実感している。受審結果ではなく、受審までのプロセスで体感した「いい感じ」を大事にし、今後に生かし、医療・看護の質の向上とサービスの改善につなげていきたい。

事務の立場から

—機能評価受審準備室事務局での取り組み— 職員班長 栗元 寛幸

平成18年9月29日、当院での機能評価受審準備室が設置され、病院として本格的な取り組みがスタートした。その準備室の事務局として、馬場事務局長ほか、私を含めて3名のスタッフが任命され、病院機能評価受審が円滑に行えるよう、

私たちは進化しつづけます

病院機能評価受審！ 私たちは進化しつづけます



訪問審査に向けてのスケジュール作成・管理、院内における情報伝達・発信、書面審査調査票及び病院資料等の作成準備、進捗状況の確認・督促等を行ってきた。

事務局としてかかわった中で忘れられない思い出は、書面審査調査票等準備資料が当日の明け方までかかり、受審に間に合うかハラハラしたことである。当日は、充血した眠い目をこすっての戦いでもあった。また、本当にスケジュールどおりに進んでくれるのか。準備書類等に不備や漏れはなかったのかなど大いなる不安は最終日まで続き、気を抜く間がなかった。



サーベヤーの講評では、若干の指摘はあったものの、概ね好評のうちに審査を終了することができた。あとは、「人事を尽くして天命を待つ」のみ！

準備室事務局の一員として機能評価の一端にかかわれたことで、「病院のあるべき姿や方向性」を少しでも理解することができ、自分自身にとって大きな収穫であった。この経験が、今後のキャリアに生きていけばと思う。



INFORMATION

第3回 医療通訳セミナーのご案内

日 時：7月21日(土) 午後1時～3時

場 所：岡山医療センター4階大研修室

資 格：外国語の堪能なかで、医療通訳を当院でやってみたいと思われるかた

会 費：無料

予約制ですので、前回セミナー参加のかたには、御案内をお送りしますが、新しくご参加希望のかたは、当院国際医療協力室(臼井由行)まで、手紙かFAXでお知らせください。

Help me!



創立記念日 4月2日

HOT NEWS

作家 小川洋子さん 来院!

特別講演
「言葉の力 物語の魅力」

小川洋子さんに出会って

看護師長 形山 優子

今まで数々の講演を聞いたが、それは医学や看護学に関するものが多く、作家の講演を聞いたのは初めてのように思う。それだけに、医療の現場の人間が話す言葉と異なり、話される言葉のひとつひとつが文学的で、聞いている自分が、小川小説の中にひきこまれていくような感じを受けた。知的で清楚な雰囲気をもつ小川さんが淡々と慎重に話される言葉の一つ一つに小説を書く人間の責任の重みを感じずにいらなかった。

小川さんが数字との出会いとその美しさを話された時に、頭の中によぎったものは、ダン・ブラウン作のダ・ヴィンチ・コードの中に出てくるヒポッチ数列と黄金比であった。「黄金比は宇宙で一番美しい数値であると考えられている」とラングドン博士は言った。小川さんの話とダ・ヴィンチ・コードでのことは、数字に関しては、自分の中では偶然の一致であった。まだ、読んでいなかった「博士が愛した数式」を一晩で読み終え、数学が全くできない私でも、数字に美しい言葉があるのだと思えた。

また、ベネチアグラスの作家の話しをされ、小川さんが「ひとりでも人生の最後の時に枕元に自分の本が置いてもらえるような作家になりたい」と話された時に、作家である小川さんと看護者である私の願いは同じだと感じた。自分自身も、「一人でも患者が必要な時に傍にいて欲しいと思える、また、この人に最後の時を見て欲しいと思ってもらえるような看護者になり

たい」と思う。そして、話を聞いていく中で、書き残すことの大切さ、書くことで自分を表現し、成長していくということを学んだ。これらは、日々看護を展開していく過程と同じであると気づき、「看護の足跡」をきちんと残しながら、果てしない看護の道をこれからも歩んで行こうと思う。

新規入職者有志

4月より入職して早々に開院記念日を迎えるという経験をした。開院記念講演として作家の小川洋子さんのお話を聴く機会があり、大変に興味深く参加させていただいた。日々バタバタと過ぎ去る中で「今」を書き残すことの大切さを感じさせられた。その後、清掃活動に参加し汗を流した。新規入職者の私たちにとっては、まさに「驚き」の一日であった。そして、職員の活気や、相互の連帯感を肌で感じることができ、このような病院に勤務することができたことを喜ばしく感じる体験であった。

創立記念日事業



職員全員での院内清掃



HOT NEWS

シリーズ 岡山医療センター物語 第5話

『病気を理解することのむつかしさ 大切さ』

橋本 精 (7B病棟入院)



宮崎に赴きました折 (2006.10) 喫茶店で。

『肝臓にこぶし程の大きさの腫瘍があります。発育の早いことから推察すれば、悪性でしょう』とは、平成19年2月6日外来診察室での太田徹哉先生の言葉である。

三月で満90才になるものの、自他共に認める健康体の私に、症例として一年間に一例あるかなしかの珍しい病魔がひそんでいるとは、全く予想もしなかった。

ともあれ、先生の指示に従い治療せねばならないが、その為には患者である私自身が、先ずどのような病気かを理解せねば落ちつかない。

そこで、私は肝臓の略図を描き、腫瘍が肝臓のどの部分に、どのような形で発生しているかということ、先生に図示して頂いた。

次に、この腫瘍は外科的処置によって除去できるのか、そして可能だとすれば、どのような方法によるのか。

更に、外科的処置を可能にする前提条件は整っているのか。例えば、肝臓の機能はどの程度維持されているのか。胆管・血管の位置と、手術部位の関連は大丈夫か。また、90才の患者が体力的に手術に耐え得るのか。等等を吟味する要がある。

これらの危惧に対して、太田先生とそのスタッフの先生達が、諸々の検査結果にもとづいて検討された結果、手術OKのサインが出された。

このように診断から手術実施に至る一連の経過を、私は私なりに理解し、家族にも説明し納得せしめたために、手術を受けるに当って、私も家族も少しの不安もなく手術の好結果を信じて待機した。

2月26日朝10時より手術開始。肝臓の一部を腫瘍とともに除去し、断面に現れた胆管三本を小腸に結合させるという10時間に及ぶ手術は無事に成功し、先生の

お話では肝機能の低下は10%程度に止まるだろうとのことであるが、その後何らの後遺症もなく四週間後の今日退院することができた。

今、ふり返って思うことは、治療（手術）を施される医師と、受ける患者の相互理解と信頼が如何に大切かということ、それは、医師の人柄と、患者の病気に対する理解であり、理解は信頼を生み、信頼は手術を成功に導くということを改めて認識させられた。

(退院の日、07・3・27記)

主治医より…

退院される前に橋本さんから一通の手紙をもらいました。そこには、手術を決心されたときの心情が書かれていました。「今、私は生に執着するのではなく、天命あるがままに「今日一日生きていて良かった」と思いながら日々を迎えたい気持ちです。したがって、今度の病気を克服するというよりは、私が私であることを自認し感謝する日が一日でも長いことを願うのみです。(中略) もし成就すれば人生最高の収穫という思いです」手術前の不安な気持ちの中で、自分の下した結論に責任を持つためにきちんと勉強され、なおかつ理解しようと努力されていました。苦しいことがあっても、全力を尽くして前向きに対処していく、そんな姿勢を橋本さんから学びました。

7B病棟看護スタッフより…

橋本さんは、入院中も、いつも前向きな姿勢で病気に対して向き合われており、訪室時に色々な話をして下さり、橋本さんとお話をした後は、私達も頑張らなければと、反対に励まされ、癒されることが度々ありまし



退院前に主治医と

DOCUMENT

た。私達看護師は、患者様が安心して治療を受けることができ、安楽な入院生活を過ごすことができるよう、身近な存在でありたいと思っています。そのためにも、患者様と医師との橋渡しになり、信頼関係が築ける様に努力していきたいと思っています。



看護師さん達に入院中身辺一切お世話になりましたが、熱いタオルでの清拭は格別でした。

わたしと医療センター

芝村 哲三 (8A病棟入院)



私が岡山医療センターに緊急入院したのは平成15年2月24日でした。すぐさまMRI検査をされ、適切な治療の結果2週間で生活復帰することができました。診断は「脳梗塞」でした。

丁度その頃、鎌倉時代の高僧 栄西禅師の本を書いていました。

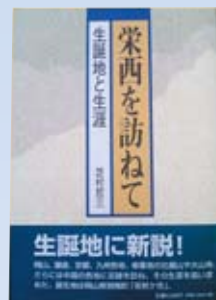
私は栄西研究の最高の学書、又は権威者の書や江戸時代、明治、大正、昭和に至る研究書を読みあさり、出生地の岡山、修行地の比叡山、大山、備前・備中の各寺、渡宋地の福岡、帰国地の平戸、建てた寺、居住した寺、入寂した京都、鎌倉、はては中国天台山、天童山、阿育王寺等に足を運び、栄西関係の事物にも接してその足跡を追い続けました。その著書の完成に必要な再調査、及写真撮影等の作業日程中に自宅で倒れて、当院で治療を受けることになったのです。

栄西は保延7年(1141)ここより程近い吉備津神社神官の家に生まれたといわれ、又、一説には備中竹之荘の正力(吉備中央町)茶煎ヶ市ちやせんで生まれたとも伝えられています。栄西が修行していた頃、備前・備中は源平争乱の渦中であり、特に平家を支援していたので源氏方より睨まれておりました。

先ず、最初に進駐してきたのは、木曾義仲軍でした。それには訳があったのです。備中の将 妹尾兼康は北陸、倶利伽藍の戦場で源氏に捕まり、今後は源氏の為に働くと甘言を弄して木曾軍に入り、京都に進駐しています。平家の本拠 屋島進攻を企てていた義仲は、倉光三郎成氏を尖兵として備中に向かわせませす。妹尾兼康は、私の故郷ですからと先導役を買ってでます。ところが兼康は

復讐の機を狙っていましたので、和氣の藤野寺で倉光三郎の部隊30人全員に酒を飲ませ、殺戮してしまいます。激怒した義仲は、今井兼平に木曾の精鋭軍を与えて妹尾打倒に向かわせませす。妹尾兼康が備前・備中の兵を募って応戦した所は、笹が瀬川を挟んで両側に山があります。東の山を烏山からすといいます。西の山を坊主山ぼうずといいます。その付近を福隆寺ふくろうとっていました。そこに陣取った妹尾兼康は木曾の精鋭軍を迎え討ちます。結果は惨澹たるものでした。

その本の最終構想を練る場所として当センター8階は、その場所が遠望できる最高の場所でありました。お陰さまで500頁に及ぶ小著が出来上がりました。当センターのお陰であったかと密かに感謝しております。その本の名は『栄西を訪ねて』といいます。



著者略歴

大正14年生まれ、吉備中央町在住
岡山県小売酒販組合連合会会長
岡山県商工会連合会副会長 等
商工業、役職歴任
平成8年黄綬褒章受章
現在は郷土史の研究

著書

『白雲のつて』日本画家妹尾天然の生涯
『剣聖、塚原ト伝の系譜、大月関平伝』
『検証、備中の秘史、
関ヶ原合戦と五輪塔、受難』
『栄西を訪ねて』生誕地と生涯
『備中作之荘、矢倉神社物語』
『去實、袈裟掛の由来』 等

[病院活動案内]

地域医療研修 セミナー・講演会(6月～7月) 会場/当院4階大研修室 時間/19:30～20:30

日程	種別	演題/内容	演者
6月19日(火)	初期治療セミナー	よくある頭痛と怖い頭痛	当院神経内科 奈良井 恒 脳神経外科 久山 秀幸
7月17日(火)	初期治療セミナー	他科の先生方のための皮膚科の知識 —虫刺され—	当院皮膚科 益田 俊樹
7月26日(木)	講演会	腎移植の現状	当院外科 田中 信一郎

(8月は夏休みとし、定時の研修は予定しておりません)

●第2回市民公開講座●

前副看護部長 赤木 美恵



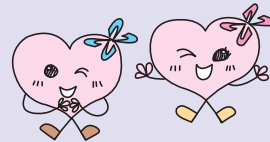
「赤ちゃん大好き～子育てママ応援～」

平成19年3月10日(土)、当院大研修室にて市民公開講座「赤ちゃん大好き～子育てママ応援～」を開催しました。子育て支援に取り組んでいる愛育委員とともに、子育てに悩むお母様達へのメッセージを発信することを目的に、講演・シンポジウムを企画いたしました。約100名の参加者を得て、活発な質疑が行われました。参加者から、「元気をもらった。子育ては楽しいと考える事ができた。子供の事でいろいろ悩んでいる事が自分だけではなかった。悩みが解消した。」等のご意見をいただき、実行委員一同大変嬉しく思っています。今後も、当院が蓄積してきた技術・知識を、少しでも地域ぐるみの子育て支援に還元できるよう、企画を工夫していきたいと考えています。



●地域医療連携の夕べに参加して●

9B病棟看護部長 東森 昌江



地域の医療機関との意見交換や、医療スタッフ相互の親睦を深めることを目的に、4月26日(木)、『地域医療連携の夕べ』が開催されました。昨年3月に引き続き、今回は2回目となりますが、連携医の先生方、当院医師、看護部、薬剤科、事務部の職員合わせて、総勢180名でのイベントでした。院長の「元気な当院」の紹介、各診療科の先生たちの診療内容アピール。看護部長をはじめとする看護部の顔見世(?)と時間ぎっしりの内容で、病院のことを知っていただき、さらなる親睦を図るという目的は達成できたのではと思いました。患者様を紹介していただく病院名、施設名、先生方の名前と実際のお顔が一致でき、地域に根ざしていくことの大切さを改めて感じる事が出来ました。

編集者から ●あとかぎ

早いもので、ザ・ジャーナル創刊から1年が経ちました。今号から「Vol.2」が始まります。病院機能評価、看護学校増築、医師・看護師の大幅増員、大型検査機械の導入、敷地内禁煙の徹底運動など、本当にめまぐるしく、忙しく過ぎた1年でした。私たちの病院は、今、医療面、人材面、経営面、環境面のすべてにおいて、全国的にみても「もっとも元気の良い病院」のひとつに成長しつつあります。ザ・ジャーナルは、

本年度も「岡山医療センターの元気」を、医療関係者、患者様といった区別なく、“バリアフリー”にお伝えする広報誌として、さらに紙面を充実させていきたいと思っております。今号には、患者様からの投稿記事も掲載いたしました。これからもさまざまな方々からの幅広い情報提供を歓迎いたしますので、よろしくお願い申し上げます。

(大森 記)

ザ・ジャーナル!!

第2巻 第1号

平成19年5月1日発行(年4回発行)
編集責任者 大森信彦
独立行政法人 国立病院機構
岡山医療センター 地域医療連携室
広報誌編集チーム
〒701-1192 岡山市田益1711-1
Tel.086-294-9911 Fax.086-294-9255